

百万石蝶談会

No. 121 August 1996

再びツマグロヒョウモンの雑種が羽化

松 井 正 人

《はじめに》

石川県のツマグロヒョウモンは、近年記録は増えているものの、まだまだ普通種では無い。その姿は山頂等で良く見られるが、雄ばかりで雌の記録は極わずかである。夏から秋にかけ、県内で世代を繰り返していると思われるが、成虫以外は記録されていない。一方、1992年には本種♀とオオウラギンスジヒョウモン♂の交尾が観察され(松井、1992)、飼育の結果雑種が羽化している(松井、1993)。

今回、メスグロヒョウモン♀、クモガタヒョウモン♀、オオウラギンスジヒョウモン♀が乱れ飛ぶ中から、羽化後間もないと思われる新鮮なツマグロヒョウモン♀を採集し、採卵、飼育した結果、再び雑種が羽化したので報告する。

1994年10月15日 羽咋市滝谷 ツマグロヒョウモン 1♀ 松井正人採集

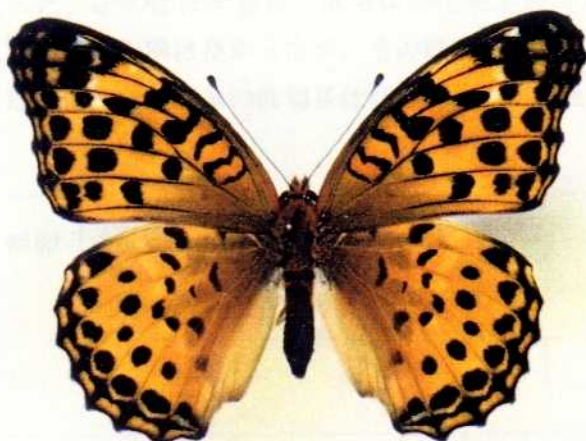
《飼育法と結果》

雑交しているとは知らず、2日間で多数卵を得たので採卵を取り止めた。孵化率は悪かったが記録はしていない。タチツボスミレで飼育するにつれ、成長の早いグループと遅いグループに分かれ、前回の雑交(松井、1993)と様子が似てきたため、飼育途中より記録を取り始めた。10月下旬からの飼育だったため、飼育は産卵後から羽化にいたるまで、自作の保温器で行なった。保温器の温度は、ほとんど17℃～23℃間にあったが、外気温の影響で15℃まで下がったり、28℃まで上がることもあった。

産卵は、10月22日、23日に行なわれ、孵化は11月4日から始まった。成長の早いグループは11月25日から蛹化、12月13日から羽化が始まり、すべて♂だった。また成長の遅いグループは12月20日から蛹化、1月14日から羽化が始まり、すべて♀だった。これから分かるように♂と♀の成長には大きな差があり、幼生期を比較すると、♂の平均は59日、♀の平均は92日、その差は33日だった。

1994年10月	11月	12月	1995年1月	2月
産卵 —			……は、記録していず推定	
孵化 —				
	♂蛹化 —	……		
		♂羽化 —		
		♀蛹化 —		
			♀羽化 —	

表-1. 飼育経過



母方 ツマグロヒョウモン
父方 オウラギンスジヒョウモン (♀)



母方 ツマグロヒョウモン
父方 オウラギンスジヒョウモン (♂)



母方 ツマグロヒョウモン
父方 クモガタヒョウモン (?) (♀)



母方 ツマグロヒョウモン
父方 クモガタヒョウモン (?) (♂)



母方 ツマグロヒョウモン
父方 クモガタヒョウモン (?) (♀裏面)



母方 ツマグロヒョウモン
父方 クモガタヒョウモン (?) (♂裏面)

写真-1. ツマグロヒョウモンの雑種

蛹化したものは41♂18♀、羽化したものは22♂16♀、正常な形になったもの18♂2♀だった。♂のほぼ半数は、成虫体が出来上がっているにも係わらず、羽化せずに死亡した。♀の羽化率は良かったが、そのほとんどは羽の左右が不対象な個体だった。♂の前翅長は26mm～31mmで♀の前翅長は36mm～40mmだった。

採卵（多数卵）	成長が早い（41蛹）	羽化（22♂）	正常羽化（18♂）
		死亡（19♂）	羽化不全（4♂）
	成長が遅い（18蛹）	羽化（16♀）	正常羽化（2♀）
		死亡（2♀）	羽化不全（14♀）

表-2. 飼育結果

《雑種の特徴》

今回の雑種には以下の特徴があり、これは前回の雑種と同様で、ツマグロヒョウモンを母方に持った雑種の傾向と思われる。

1) 孵化率が悪い

孵化率が悪いのは、雑種として当然の傾向と思われる。今回の記録はないがかなり悪く、前回は30%だった。

2) ♀の幼生期が長い

今回の平均幼生期は、♂59日、♀92日で、♀は♂の1.6倍、前回は♂35日、♀62日で、♀は♂の1.8倍だった。

3) ♀は♂より弱く正常個体の羽化が少ない

正常個体の羽化数は、今回18♂2♀、前回37♂11♀と♀が少ない。蛹化数に対する正常羽化率は、今回♂44%、♀11%、前回♂80%、♀35%と、♀が弱いことを示している。

4) ♀成虫は大型になる

前翅長は、今回が♀36mm～40mm、♂26mm～30mmで、前回は♀45mm、♂35mmと、♀が♂に比べてかなり大きい。

次に、正常個体の羽化率を今回と前回で比べると、♂♀ともに今回が悪い。これは今回の雑交相手が、前回のオオウラギンスジヒョウモンよりもツマグロヒョウモンに対し、より隔たっているためだと思われる。孵化率も同様な結果になると思われるが、残念ながら記録していない。

《雑種の形態》

羽化個体の斑紋に個体差は無く、♂♀それぞれの傾向を示した。父方の種は不明だが、斑紋は中間型と思われる。斑紋は前回の雑種と異なり、♂では発香鱗条が第2脈上にのみ表れ、♀では前翅頂付近に三角形の小白斑とその下に小班が表れた。

《雑交の相手》

今回の雑交の相手は、ヒョウモンチョウの仲間と思われ、県内に分布し雑交の可能性のあるものには、オオウラギンスジヒョウモン、ウラギンスジヒョウモン、ミドリヒョウモン、クモガタヒョウモン、メスグロヒョウモン、ウラギンヒョウモンが考えられる。斑紋はいずれも似通っていて相手を特定するのは難しいが、後翅の形がクモガタヒョウモンに似ているようである。また、発香鱗条が第2脈上にのみ表れるのはクモガタヒョウモンだけであり、オオウラギンスジヒョウモンとの雑種は、オオウラギンスジヒョウモンと同じく第1b、2、3脈に発香鱗条が表れている。

図-1は今回の雑種の♂交尾器と、オオウラギンスジヒョウモンとの雑種の♂交尾器である。この図と原色日本蝶類図鑑(川副昭人・若林守男、1976)のこれらヒョウモンチョウ各種の交尾器と比較すると、オオウラギンスジヒョウモンとの雑種の♂交尾器はやはりオオウラギンスジヒョウモンに近い。そして今回の雑種は、クモガタヒョウモンに近いようである。

以上のことから、今回の雑交の相手はクモガタヒョウモンだと思われる。

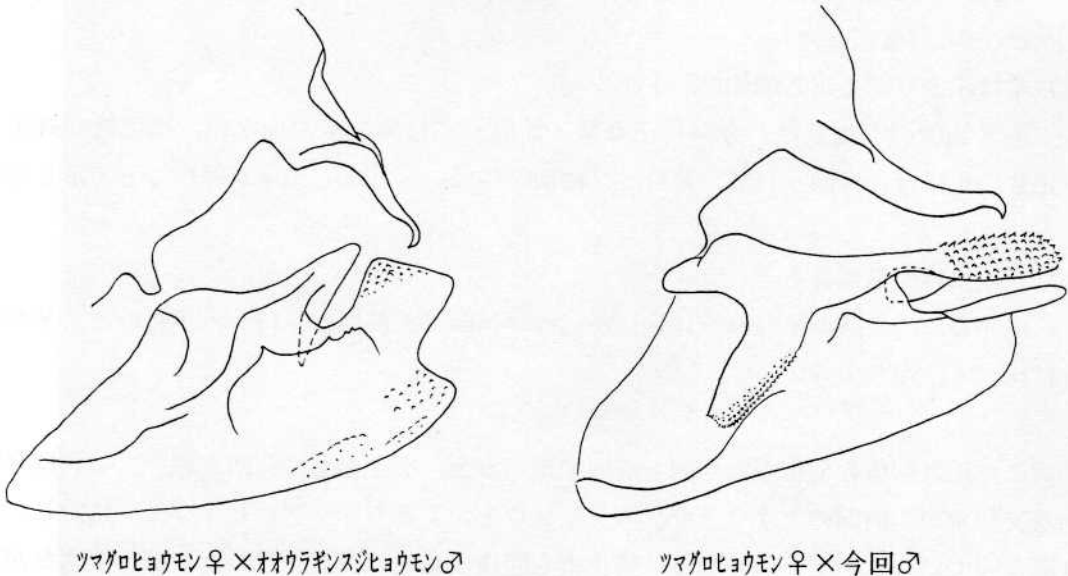


図-1. 雑種の♂交尾器

《さいごに》

これまで、県内で採集したツマグロヒョウモン3♀から採卵している。この内、まとも
にツマグロヒョウモンが羽化したのは1回だけで、あとの2回は雑種が羽化した。石川県
は分布拡大の最先端で本種の密度が低く、本来の交尾相手になかなか巡り合えないのかも
知れない。しかし、別の見方をすれば、分布拡大を狙うツマグロヒョウモンを、既存分布
のヒョウモンチョウ類が肉弾で阻止しているかのようでもある。

分布拡大の最先端では、このようなことは良くあるのかも知れない。このような地域で
分布拡大を狙う新参者の♀を得たときは、採卵してみるべきだろう。

最後に、貴重な御意見を賜った野中 勝、澤田 博の両氏に厚くお礼申し上げる。

《参考文献》

松井正人, 1992. ツマグロヒョウモン♀とオウラギンスジヒョウモン♂の自然交尾を観察, 翔(98):1.

松井正人, 1993. ツマグロヒョウモンとオウラギンスジヒョウモンの雑種が羽化, 翔(100):8-9.

川副昭人・若林守男, 1976. 原色日本蝶類図鑑, pp. 422. 保育社.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

ポピュラーになりつつあるウスイロコノマチョウ

松井正人・森 正俊

近年ウスイロコノマチョウは、各地で記録されるようになり、石川県でも最近はポピュ
ラーな迷蝶になりつつある。しかし、単純に県内への飛来数が増えたとは言いきれず、調
査法の向上、調査回数の増加も関係していると思われる。

1995年10月10日 加賀市西島 1♂ 松井正人

1995年10月22日 小松市串 1頭 森 正俊

2頭とも破損の無いきれいな個体なので、県内で発生している可能性も高い。今後は、
成虫が確認された付近での幼虫調査も必要と思われる。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

《もり まさとし 〒923 小松市丸の内町1-5 小松昆虫館》

僕の採ったチョウの記録

富 沢 直 浩

1990年頃から父と昆虫採集に出かける事がおもしろくなり、主に小松市の山地でチョウや甲虫を採ってきました。

ここでは、これまでのチョウの記録をまとめました。同じ産地で何回も採っている場合は最も新しい記録だけを書きました。

採集データを整理してくれた松井さんに感謝します。

ギフチョウ			小松市麦口	1995年4月16日	1頭
小松市原(沢原林道)	1995年4月15日	2頭	小松市中峠	1993年6月20日	1頭
小松市布橋	1995年4月15日	1頭	スジボソヤマキチョウ		
小松市大野	1993年4月17日	2頭	辰口町仏大寺	1995年10月14日	2頭
小松市岩淵	1995年4月16日	2頭	鳥越村上吉谷	1993年9月19日	1頭
ウスバシロチョウ			鳥越村河原山	1994年7月10日	1頭
小松市茗ヶ谷	1995年5月27日	4頭	キチョウ		
小松市新保	1995年6月25日	2頭	小松市中峠	1992年6月2日	1頭
小松市菩堤	1994年5月14日	3頭	小松市岩淵	1993年4月16日	1頭
小松市大杉	1994年5月23日	4頭	小松市五国寺	1992年5月31日	1頭
ツマキチョウ			ウラギンシジミ		
小松市西俣	1995年4月29日	3頭	小松市原(沢原林道)	1993年9月11日	1頭
小松市中海	1992年4月19日	1頭	小松市中峠	1992年9月6日	1頭
鳥越村鷺走谷	1995年5月7日	5頭	小松市菩堤	1995年6月18日	1頭
モンキチョウ			小松市蓮代寺	1994年6月26日	1頭
小松市大杉	1993年5月30日	1頭	吉野谷村瀬波	1995年9月15日	1頭
小松市吉竹	1990年6月17日	1頭	ミドリシジミ		
小松市八幡	1992年5月10日	1頭	小松市岩上	1995年7月1日	2頭
辰口町仏大寺	1995年10月14日	1頭	小松市杖川	1988年7月3日	2頭
鳥越村河原山	1994年7月16日	2頭	小松市蓮代寺	1994年7月2日	4頭
白峰村砂御前山	1994年6月4日	1頭	小松市五国寺	1993年7月4日	1頭
白峰村白山六万山	1995年6月11日	1頭	小松市吉竹	1990年6月17日	1頭
モンシロチョウ			吉野谷村瀬波	1995年9月15日	1頭
小松市中峠	1992年6月12日	1頭	ミズイロオナガシジミ		
吉野谷村瀬波	1995年9月15日	1頭	小松市岩倉山	1994年6月26日	2頭
スジグロシロチョウ			小松市八幡	1994年6月11日	2頭
小松市西俣	1995年4月29日	2頭	小松市中海	1990年6月10日	1頭
小松市原	1995年5月6日	1頭	白峰村百合谷	1994年8月14日	2頭

㊦アカシジミ

小松市岩倉山	1994年6月26日	1頭
小松市中峠	1993年7月25日	1頭
山中町杉水	1994年6月4日	1頭

㊦ウラクロシジミ

小松市中峠	1991年7月7日	2頭
小松市岩倉山	1994年6月26日	1頭

㊦ウラナミシジミ

小松市鶴川遊泉寺	1994年10月9日	3頭
辰口町仏大寺	1994年10月9日	3頭

㊦ゴイシシジミ

小松市四丁	1995年6月10日	1頭
小松市中峠	1991年7月7日	1頭

㊦スギタニルリシジミ

鳥越村鷺走谷	1994年5月8日	5頭
--------	-----------	----

㊦ルリシジミ

小松市西俣	1995年6月17日	1頭
小松市中峠	1993年4月18日	1頭
小松市花立	1993年5月16日	1頭
小松市菩堤	1995年6月18日	1頭
小松市麦口	1995年4月16日	3頭
辰口町仏大寺	1995年9月15日	1頭
鳥越村鷺走谷	1994年5月8日	2頭

㊦コツバメ

小松市中峠	1993年4月18日	1頭
小松市原(沢原林道)	1994年4月17日	3頭
小松市原	1995年5月6日	1頭
白峰村砂御前山	1994年6月4日	1頭

㊦トラフシジミ

小松市麦口	1994年5月8日	1頭
小松市茗ヶ谷	1995年5月27日	1頭

㊦ツバメシジミ

小松市八幡	1995年7月23日	1頭
-------	------------	----

㊦コチャバネセセリ

小松市茗ヶ谷	1995年5月27日	2頭
--------	------------	----

小松市菩堤	1995年6月18日	1頭
-------	------------	----

小松市新保	1995年6月25日	1頭
-------	------------	----

小松市中峠	1993年5月29日	1頭
-------	------------	----

㊦アオバセセリ

小松市菩堤	1995年5月14日	5頭
小松市中峠	1991年8月4日	1頭

㊦ダイミョウセセリ

小松市中峠	1992年6月21日	1頭
小松市菩堤	1995年6月18日	1頭

㊦ミヤマセセリ

小松市岩淵	1995年4月22日	5頭
小松市大杉	1993年5月30日	1頭
小松市中海	1992年5月5日	1頭

㊦キマダラセセリ

辰口町仏大寺	1995年9月15日	1頭
--------	------------	----

㊦コキマダラセセリ

小松市新保	1993年8月1日	1頭
白峰村白山釈迦道	1995年8月5日	1頭

㊦イチモンジセセリ

小松市茗ヶ谷	1995年5月27日	1頭
小松市中峠	1992年5月21日	1頭
小松市原(沢原林道)	1993年9月11日	1頭

㊦チャバネセセリ

小松市中峠	1992年9月6日	1頭
小松市向本折	1995年10月28日	1頭
辰口町仏大寺	1995年10月14日	1頭

㊦ミヤマチャバネセセリ

小松市菩堤	1994年5月14日	1頭
小松市茗ヶ谷	1995年5月27日	1頭

㊦ホシチャバネセセリ

小松市原(沢原林道)	1993年9月11日	2頭
小松市菩堤	1995年6月18日	1頭
小松市遊泉寺	1992年8月30日	1頭

㊦ホソバセセリ

小松市中峠	1995年7月22日	1頭
-------	------------	----

❖キバネセセリ

尾口村鵪谷 1994年7月30日 1頭

❖ミドリヒョウモン

小松市新保 1995年6月25日 1頭

小松市上大杉 1995年6月25日 1頭

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

❖オオウラギンスジヒョウモン

小松市日用 1993年7月4日 1頭

小松市中峠 1993年7月25日 2頭

小松市五国寺 1993年7月4日 1頭

辰口町仏大寺 1995年9月15日 1頭

白峰村白山釈迦道 1994年8月6日 1頭

吉野谷村瀬波 1995年9月15日 1頭

❖ウラギンヒョウモン

小松市中峠 1993年6月20日 2頭

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

鳥越村河原山 1995年7月23日 1頭

❖クモガタヒョウモン

小松市観音下 1993年6月12日 2頭

山中町杉水 1994年6月4日 1頭

吉野谷村瀬波 1993年9月19日 1頭

❖ツマグロヒョウモン

小松市芦城公園 1991年6月4日 1頭

辰口町仏大寺 1994年10月15日 1頭

鳥越村下吉谷 1993年9月19日 1頭

❖ヒオドシチョウ

小松市岩淵 1995年4月16日 2頭

小松市杖川 1994年5月12日 1頭

小松市八幡 1994年6月12日 1頭

山中町富士写ヶ岳 1993年5月5日 1頭

❖イチモンジチョウ

小松市菩堤 1995年6月3日 1頭

小松市中峠 1992年6月21日 1頭

小松市鷹落山 1993年7月4日 1頭

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

❖アサマイチモンジ

小松市茗ヶ谷 1995年5月27日 1頭

吉野谷村瀬波 1995年9月15日 1頭

❖ホシミスジ

白峰村白山釈迦道 1995年8月5日 1頭

鳥越村上吉谷 1993年9月19日 1頭

❖コミスジ

小松市菩堤 1995年5月14日 1頭

小松市原 1995年5月6日 1頭

小松市茗ヶ谷 1995年5月27日 1頭

小松市大杉 1993年5月30日 1頭

❖キタテハ

小松市八幡 1994年7月22日 1頭

小松市丸内 1992年10月22日 1頭

辰口町仏大寺 1994年10月9日 1頭

鳥越村上吉谷 1993年9月19日 1頭

❖サカハチチョウ

小松市茗ヶ谷 1995年5月27日 2頭

小松市原(沢原林道) 1993年9月11日 1頭

小松市新保 1993年8月1日 1頭

小松市中峠 1993年7月28日 1頭

小松市大杉 1993年5月30日 1頭

白峰村白山六万山 1995年6月11日 1頭

❖アカタテハ

小松市中峠 1993年7月25日 1頭

小松市八幡 1994年7月23日 1頭

白峰村白山釈迦道 1994年8月7日 1頭

❖ヒメアカタテハ

吉野谷村瀬波 1993年9月19日 1頭

❖スミナガシ

小松市茗ヶ谷 1995年5月27日 1頭

❖ルリタテハ

小松市八幡 1994年6月19日 1頭

小松市中峠 1991年7月7日 1頭

小松市岩倉山 1994年6月26日 1頭

❖キベリタテハ

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

❖ゴマダラチョウ

小松市五国寺 1993年5月30日 1頭

❖コムラサキ

小松市西俣 1995年7月1日 1頭

小松市八幡 1994年8月16日 1頭

吉野谷村瀬波 1993年9月19日 1頭

鳥越村上吉谷 1993年9月19日 1頭

❖オオムラサキ

鳥越村河原山 1994年7月16日 2頭

❖テングチョウ

小松市尾小屋 1994年6月12日 2頭

小松市新保 1995年6月25日 2頭

小松市打木 1994年6月26日 1頭

小松市西俣 1994年7月26日 1頭

小松市大杉 1993年5月30日 1頭

鳥越村鷺走谷 1994年5月5日 1頭

白峰村白山六万山 1995年6月11日 1頭

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

❖ベニヒカゲ

白峰村白山釈迦道 1995年8月5日 1頭

❖ヒメキマダラヒカゲ

白峰村白山釈迦道 1994年8月6日 1頭

白峰村百合谷 1994年8月14日 1頭

❖ヤマキマダラヒカゲ

白峰村白山六万山 1995年6月11日 2頭

白峰村白山釈迦道 1995年8月6日 1頭

白峰村砂御前山 1994年6月4日 1頭

❖サトキマダラヒカゲ

小松市中海 1993年8月22日 1頭

❖オオヒカゲ

宇ノ気町笠谷 1992年7月17日 3頭

❖クロヒカゲ

小松市遊泉寺 1995年9月10日 1頭

小松市鞍掛山 1992年5月17日 1頭

小松市中峠 1993年5月29日 1頭

小松市西俣 1995年6月17日 1頭

小松市中海 1990年6月10日 1頭

❖ヒカゲチョウ

小松市八幡 1995年6月25日 1頭

小松市遊泉寺 1995年9月10日 1頭

❖ヒメジャノメ

小松市八幡 1994年7月23日 1頭

❖コジャノメ

小松市大杉 1993年5月30日 1頭

小松市鞍掛山 1994年5月22日 1頭

小松市西俣 1995年6月17日 1頭

小松市菩堤 1994年5月14日 1頭

加賀市刈安山 1995年5月26日 2頭

❖ヒメウラナミジャノメ

小松市岩淵 1995年5月27日 1頭

加賀市直下 1995年5月26日 1頭

❖ツマジロウラジャノメ

吉野谷村瀬波 1993年9月16日 1頭

❖ジャノメチョウ

加賀市幸 1995年9月14日 1頭

❖アサギマダラ

小松市丸山 1994年6月12日 1頭

白峰村白山釈迦道 1995年8月5日 1頭

吉野谷村瀬波 1993年9月15日 1頭

押水町宝達山 1988年9月22日 1頭

❖カバマダラ

小松市向本折 1995年10月5日 1頭

瀬女高原のカミキリムシ (Ⅱ)

高 田 兼 太

1994年の尾口村瀬女高原におけるカミキリムシ科の採集記録は、翔109号（高田兼太・他、1994）に21種を紹介した。

今回は、1995年に瀬女高原で得られたカミキリムシ科のうち、前回の調査で得られなかった種について紹介する。

22. ナガバヒメハナカミキリ	1995年7月 1日	1頭
23. オオヒメハナカミキリ	1995年7月 1日	1頭
24. ヒラヤマコブハナカミキリ	1995年6月10日	1頭

県内では、白峰村白山釈迦林道および小松市大山以外での採集例はない。また、採集例も少ない。

25. コジマヒゲナガコバネカミキリ	1995年6月10日	1頭
26. キッコウモンケシカミキリ	1995年7月 1日	1頭

その他、前回紹介したアカネトラカミキリ・アカネカミキリおよびシロオビチビヒラタカミキリも多数得られた。

《参考文献》

- 井村正行, 1986. 石川県のカミキリムシ科 (その2). 翔 (56) : 6-10.
 井村正行・他, 1993. 本県産カミキリムシ科3種の記録. 翔 (100) : 29.
 高田兼太・他, 1994. 瀬女高原のカミキリムシ. 翔 (109) : 3.

《たかだ けんた 〒920 金沢市宝町6-26 二井マンション》

市街地の鉢植で発生したアゲハの仲間

諸 道 秀 人

大津市の自宅に、キハダ、ザボン、カラスザンショウ等の鉢植があり、1995年は各種のアゲハが産卵に訪れた。

キハダには、アゲハ、ミヤマカラスアゲハ、モンキアゲハが産卵したが、個体数の多いクロアゲハの産卵は見られなかった。ミヤマカラスアゲハの発生地は最も近い所でも14kmの距離があり、モンキアゲハのそれは5kmである。

ザボンとカラスザンショウには、アゲハ、クロアゲハの産卵が見ら、ミツバ、セリ、パセリ、アシタバには、キアゲハが発生していた。

《もろみち ひでと 〒520-21 大津市一里山1-8-23》

カトカラ狂い Part Ⅲ

野 中 勝

思い出すのも困難な遠い昔、カトカラに狂っていた。この頃のことは野中(1980)と野中(1982)に書いた。その後、日本産29種の内24種を採集し、カバフとクロシオを他人から譲ってもらい、残りはヒメシロとウスイロとヤクシマヒメの3種となった段階で、それらの産地が金沢から遠いことから、持ち前の“虫は欲しいが苦労はしたくない”性格により足踏みをしていた。ところが、1993年春に名古屋に引っ越して、事態は一変した。なにしろ自ら採集したことのない5種のうち、ウスイロ、カバフ、クロシオは愛知県で記録されており、ヤクシマヒメの日本でもっとも確実な産地も、隣の三重県に存在するのである。普通ならここで即出撃となるところであろうが、楽な採集の奥儀を極めた私ともなるとそう軽々しくは行動に移らず、更に1年の猶予期間を置き、周りの甲虫屋のうちギフチョウなどに手を出していて脈がありそうなを選んで蛾の道に引きずり込み、基本的には車に同乗するだけでカトカラにあり付ける体制を作りあげた。お陰で1994年末までに、カバフを除く全種を自分で採集することが出来た。その様子を以下に記そう。

1種目は偶然に得られてしまった。1993年8月22日、オオトラが有望という日和田高原目指して、充と2人で朝4:30に名古屋を立った。6:30に木曽福島のチップ工場で、少し前に得られたというパキピド(ヒグトハナガキリ)を探した。甘い話がそうそう転がっているわけもなかったが、材木に止っていたカトカラを発見して採集した。それは長いことカトカラから離れていた目には貧弱なコシロに見えたが、新鮮だったので三角紙に包んだ。日和田高原には7:30に着いたが、既に秋田勝己氏が朝露に濡れたクマザサの中を徘徊しており、あまつさえ近くの樹には前日採集したというオオトラの雄が茶濾しに入れられてぶら下がっており、雌を呼ぶ試みとのことであった。この日は日本中から10人以上の虫屋がオオトラを求めてこの地に集結していたが、オオトラはついに得られなかった様である。それでもはじめてのパキタ(キバカハロハガキリ)をタマヌキイを含めて15頭と、これまた始めてのソボリングを採集できた私は大満足であった。家に帰ってカトカラを調べてみたら、ヒメシロであることが判明した。ラッキー。これで持っていないのはヤクシマヒメとウスイロの2種、自分で採っていないのはそれにクロシオとカバフを加えた4種だけとなった。

ヤクシマヒメの確実な産地の情報が入った。三重県海山町不動谷、大塔山より大分近い。1994年7月2日、俄かにシャチホコに狂いだしカトカラにも興味を示す杉村明道氏、虫ならなんでもオーライの吉富博之氏と昼過ぎに出発。杉村氏運転の車には、杉村氏個人のものとは吉富氏の在籍する名城大学農学部のものとの2セットのナイター設備が積み込まれ、私は助手席という理想的な展開で明るい内に不動谷に着いた。発電所を見下ろすいかにも絶好のポイントと、そこから少し奥のトンネルを抜けた場所に幕をセット、さあ早く

暗くなれとはやる心を抑えかねていると、1台の車が出現。乗っていたのは泣く子も黙るウラヘテロのメンバーの1人で、吉富氏と顔見知りのM氏であった。その後も続々とウラヘテロのメンバーがやってきて、最終的にはこの狭い谷に6つもの幕が張られたのであった。この谷にヤクシマヒメが産することを発見したのはもちろんウラヘテロのメンバーであり、我々が幕を張った所がナンバー1とナンバー2のポイントらしく、彼らは1人が我々と並んで張ったのを除いては、しぶしぶ谷のより奥に徒歩5分から10分の間隔を置いて幕を張っていた。暗くなるのを待ち兼ねるようにして点灯。発電所のナンバー1ポイントに吉富氏と私が、奥のナンバー2ポイントに杉村氏が陣取る。やがて大型のキシタバが飛来したが、幕に止る事無く飛び去る。しばらくすると杉村氏がやってきて、ヤクシマヒメじゃないと思うけどと三角紙に入ったカトカラを見せてくれる。見たこともない鮮やかな裏面は、ウスイロであることを物語っていた。するとさっきのもウスイロと俄然やる気になるが、飛来するのは訳のわからない小型の虫が多く吉富氏が喜ぶばかりである。ヤクシマヒメは谷底の発電所の灯にも来ると言うことなので何度か見に行ったが、これもダメ。それからしばらくはカトカラの飛来はなく、隣のウラヘテロさんも、幕は放置してどこかへ行ってしまった。どうやら奥の幕に集まって宴会をやっているらしいので、吉富氏と2人で覗きにいくことにする。隣の幕には杉村氏が頑張っていたが、カトカラの追加は無しとのことで一緒に奥へ。その奥の幕は無人、無カトカラ。つぎの幕には持ち主がいて、「今晚は」とやっているとウスイロが飛来して私の目の前に止る。あつかましくも「採っていいですか?」「どうぞ」の声を聞くと同時に、ウスイロは私のネットに収まっていた。やった。また1種増えてしまった。皆が集まっている一番奥の幕に着いたのは、10時半頃だったのだろうか。どうやらこれまでに採れているのはウスイロ2頭のみのものであるが、皆ヤクシマヒメは12時過ぎてからと落ち着いている。数日前には1人で30頭も採集した人もいたとか。ワイワイやっている皆を残して1人で戻ることにする。狙いはもちろん途中の無人の幕。しかし1つ目、2つ目、3つ目とカトカラの姿なし。杉村氏の幕に来るとウスイロが止っていて、ありがたく1頭追加。発電所ポイントに戻ってみると、我々の灯は発電機のガス欠で消えており、隣のウラヘテロさんの幕に多数の蛾が集まっている。中に小型のカトカラが1頭おり、これがこの日最初のヤクシマヒメであった。ヤクシマヒメは本当に12時過ぎてから飛来し、私は3頭追加、杉村氏も数頭採集した。ウスイロは新鮮、ヤクシマヒメはやや飛び古した個体であったが、ウラヘテロ勢はどちらも殆ど採れなかったようで、この夜は素人組の圧勝であった。かくして日本産カトカラは全種手にする事が出来、自力採集の課題がクロシオ、カバフの2種のみとなった。

クロシオは渥美半島でも知多半島でもほぼ確実に採れるとのことで、1994年中の自力全種制覇のポイントとなるのはカバフのみ。そのカバフが1993年に1頭採れているという豊田市の六所山へ再び吉富氏、福住和也氏それに充を加えた四人で、ナイターに出かけたのは7月16日の事であった。現地に着いた時は既に暗く、ポイントが分からないままにいい

加減に幕を張ったが、蛾の飛来は極めて少なく、カトカラはワモン1頭のみ。クヌギの樹液を見回って、多数のマメと共にアミメが1採れたのだけが収穫であった。カバフもアサマ、オニベニ等と同様薄暮活動性ではないかと、7月24日の夕方にも再度訪れてみたがオニベニがいただけでボツ。カバフは手強そうである。

手強いカバフは一先ず置いておいて、ほぼ確実というクロシオに出かけたのは1994年7月30日。運転手兼案内人の吉田篤氏のハイエースに杉村氏とともに乗り込んで、渥美半島の泉福寺を目指す。同じ愛知県と言っても渥美半島の先端部は非常に遠く、いってみれば金沢から輪島に行く様なもので、3時間以上かかってしまう。もっとも運転手付きだから、何時間かかろうがムシの話をしているうちに着いてしまうのだから気楽である。着いたところはクヌギ、カシの樹液ポイントで、それも車のドアを開けた途端に匂いがするほどの強烈な樹液である。カブトムシが極めて多く、時々大型のキシタバが飛来する。吉田氏によるとここにはクロシオしかいないとのことなので片っ端から採集する。かなり傷んだものから新鮮なものまでおり、サイズもかなりばらついている感じだったが10頭近く採集した。ついでにこの辺では大型になるミカワオサをワン・ペア採集したり、杉村氏がスダジイからベーツヒラタを引きずりだすのを手伝ったりして、満足して帰路に着いた。名古屋に着いたのは日曜の早朝5時頃だったろうか。ひと眠りして、蛾を広げてみて唖然。大きくて新鮮だったのは全てただのキシタバ。小型でボロだったのがクロシオであったが、4頭しかいなかった。まあいいや、来年カバフを自力で採集してパーフェクトにしよう、ここでこの年のカトカラは打ち止めにしようと思っていると、白骨温泉でヤンコウスキーキリガをと誘われて、のこのこと付いていく。もちろん狙いはヤンコと同じシナノキを食するオオシロシタバ。石川県でも時々採集されるが、なぜかボロになってからナイターに飛来する感じで、新鮮なものは1頭しか持っていない。1994年8月13日の白骨のナイターは蛾の飛来が良く、ヤンコ11頭、オオシロ29頭採集する事ができた。ハッピーな気分でおオシロを展翅しながら1995年に思いを馳せる。カバフはどうせなら10頭ほど採ろう。ついでにナマリ、ケンモンも沢山欲しいな。そうだとフシキとヒメシロもいっぱい採らねば。それに・・・・・・。

かくして1995年には大容量発電機と水銀灯という近代ナイター設備を整え、カトカラシーズンに臨んだ。結果は？ それは次回にしておきましょう。

《参考文献》

野中 勝, 1980, 「カトカラ狂い」, 翔, (18): 7-8.

野中 勝, 1982, カトカラ狂い: Part II, 翔, (26): 6-7.

《のなか まさる 〒458 名古屋市緑区伝治山1-2 タウン伝治山9-206》

報告書はなかなか送られてこなかった。すっかり忘れていた九六年六月に報告書は届いたが、発行は九三年三月になっていた。

小松のネプトクワガタ

長らく調査されながらも確認できなかったネプトクワガタが、小松で採れていた。小松博物館に一ひ、小松昆虫館一ひが展示されている。

日和田から開田高原

エゾハイイロ、フサヒゲ、オオトラとおもしろいところが狙える岐阜長野の県境は、各地の虫屋でにぎわっている。六月二十九日は、金沢の井村チーム、名古屋の野中チーム、大宮の三陰チーム等々。

文献総数なんと二千四百件

昆虫総目録の文献作りが進行している。七人から集まった総数が二千四百件。パソコンで処理すると同じ文献が二度三度と登場するので、実数は半分程か。

小松市西俣地区の昆虫調査

中山佐一郎氏率いる小松昆虫会が中心となって、西俣地区の昆虫調査が行われている。梅雨の晴れ間の調査では、思わぬ種も見つかった。

金沢中心部のヒグラシの声

良好な音環境を残そうと環境庁が将来に残したい音風景百選を行った。鳥の声や滝の音、波、鐘、祭の音など、いろいろある中で、虫の音は金沢が誇る「本多の森の蟬時雨」を含め、七つ選ばれた。

ゼフの思わぬ産地を発見

ゼフの宝庫医王山が、集中豪雨で不通になった。はたと困った嵯峨井ゼフ採集人は、とりあえず倉ヶ岳へ行くと、何とゼフが乱舞。フジ以外のゼフは医王山と肩を並べる程に多いらしい。

東笠山で遭難したチョウ屋

「ハイマツ帯に生息するギフチョウ」「ガスの中を舞う

高山蝶とも言うべきギフチョウ」、こんなコピーでギフヤビデオが今春売り出された。

一躍有名になった東笠山だが、七月一日には採集者が遭難し、救助のヘリが出動した。

秘密兵器は群馬へ飛んだ

遠出が重なる秘密兵器一号、今度は群馬へ飛んだ。どでかいクワの切株があるとかで、メガだかギガだか話していた。

例会の記録

六月六日(木)八時から城南管工二階にて開催。

翔の写真張りの情報が漏れたのか、集まりがすこぶる遅く、九時になってもたったの三人だった。

今回は情報盛沢山で、「エー」の声がかえました。その情報とは、ヤノコモンは一蹴二十頭、金沢で採れたオオクワガタ、小松で採れるネプトクワガタ、等々。

その後の雑談では、桧枝岐へ行くぞ、モンクロベニとオオムツボシどっちが大事、秘

密兵器はミサイルだ、ジョウカイボンはおもしろい、ヘッドハンティングされました。

参加は久慈、生田、井村、中西、松井、高田、山岸、飯田、江崎(電話参加)の九人。

例会の記録

七月四日(木)八時から城南管工二階にて開催。

今回は日和田のオオトラ採集の話。小さな木にも付いていて、樹皮をさすると坑道が分かる。削って確認し、坑道を追っていくと、「の」字に巻いているが・・・。

その他の話題は、今年のギフ採集は十七回、千葉と能登のシャープを飼育、アカゲラに先を越された秘密兵器、会費未納で会誌が来ない、削らないと気が済まない、入林許可証と進入許可証、ツマグロヒョウモンの幼虫が二百頭、天生のギフは大穴。

参加は中西、江崎、井村、松井、西原、指田、吉村、山岸、高田の九人。

表紙デザイン・小幡英典

会員の動き・しゃぼの動き

マックと98を使いこなすパソコンを使いこなしている徳本氏、データは総てパソコンの中で快適に処理をしている。ところが最近マックと98のデスクトップが突然凍りついたらしい。98ノートは健在だが、ハードディスクにアクセスできなくて困っている。こんな徳本氏、何と昭和四年生れ。

ヤノコモンが一蹴り二十頭ネオポリスに三時に着き、一眠りしてから採集する事になったが、待ちきれないまま採集は五時から始まった。住宅地でヤマナラシを見付けた秘密兵器一号は、脱出口を確認した後、ポンと木を蹴った。音も無くヤノコモンが落ち、その数は二十頭を越えていた。

鴨池灯火は大にぎわい六月十四日、梅雨の蒸し暑い晴間の灯火採集。月齢も最高で、虫がわんさか集まった。ゴミムシ、ブイブイ、ガムシで幕は真っ黒、これを狙ったタヌキも現れたり、招かれざる蚊にも悩まされた。次回から、鴨池観察館で宿泊可能。

秘密兵器は福島へ行った六月二十一日から二泊三日で福島は桧枝岐へ出向いた秘密兵器一号二号、キラキラピカピカに満足し、ハルニレの材も採ってきた。

八十メガのパワーマック表紙でお馴染の小幡氏、パワーマック八五〇〇をサウンドにグラフィックにとバリバリ使っている。このマック、

ハードディスク二ギガ、メモリー八十メガとただものではないが、画像を扱うには最低これくらいは必要らしい。そろそろマックで作った表紙ができてくる。

ドクターストップ何のそのアルコールの摂取しすぎでドクターストップがかかった指田氏だが、「こればかりは止められない」と言いながらも、最近ビールしか飲んでいない。

キゴ山チヨッキリ採集会学校がお休みの第四土曜日に、小学生を集めて自然観察会を開いている澤田氏、六月は「ゆりかご」採集会。「ゆりかごってな〜に」と言っていた子供や保護者だったが、たくさんの「ゆりかご」が集まった。

動植物調査報告書が届いた環境庁の第四回基礎調査(蝶)は、九十年、九一年と二カ年に渡って行われたが、

翔

NO. 121

1996年8月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



目 次 (121号)

松井正人：再びツマグロヒョウモンの雑種が羽化	1
松井正人・森 正俊：ポピュラーになりつつあるウスイロマチョウ	5
富沢直浩：僕の探ったチョウの記録	6
高田兼太：瀬谷高原のカミキリムシ(Ⅱ)	10
諸道秀人：市街地の鉢植で発生したアゲハの仲間	10
野中 勝：カトカラ狂い Part Ⅲ	11
編集 部：会員の動き・しゃべの動き	15